

# 議員全員協議会

日 時	令和4年9月9日（金） 開会中	9時49分 開会 11時06分 閉会
場 所	相良庁舎4階 大会議室	
出席議員	議長 16番 植田博巳 副議長 15番 村田博英	
	1番 石山和生	2番 谷口恵世 3番 絹村智昭
	4番 名波和昌	5番 加藤 彰 7番 松下定弘
	8番 種茂和男	9番 濱崎一輝 10番 原口康之
	11番 大井俊彦	12番 太田佳晴 13番 中野康子
	14番 大石和央	
欠席議員	6番 木村正利	
事務局	局長 原口 亨 次長 本杉裕之 書記 大塚康裕 書記 本杉周平	
説明員	市長、副市長、教育長、総務部長、企画政策部長、政策監 健康推進部長、健康推進課長、母子健康係長、地域医療係長 福祉こども部長、子ども子育て課長、幼保支援係長	
傍 聴	静岡新聞、中日新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、共同通信 時事通信、静岡第一テレビ、テレビ静岡、静岡朝日テレビ、NHK SBS	

署名 \_\_\_\_\_ 議長

[午前 9時49分 開会]

---

## 開会の宣告

### ○議長（植田博巳君）

皆さん、改めましておはようございます。ただいまから、議員全員協議会を開催したいと思います。

なお、本日の会議におきまして、報道機関の皆様より傍聴席から写真、テレビ撮影の申出があり、牧之原市議会委員会傍聴規定によりまして、議長において許可しておりますので、ご承知おきください。

---

## 2 市長報告

### ○議長（植田博巳君）

それでは、まず最初に市長報告をお願いしたいと思います。

杉本市長。

### ○市長（杉本基久雄君）

本日は、本会議終了後、2件の報告案件ということで、全員協議会を開催させていただきました、ありがとうございます。

案件といたしましては、オミクロン株対応ワクチンの接種について、2点目といたしまして、川崎幼稚園の事故について、この2点について報告をさせていただきます。

まず1点目の、オミクロン株対応ワクチンの接種についてであります。

9月2日付、厚生労働省通知におきまして、オミクロン株対応ワクチン接種の接種体制確保に係る新たな方針が示されました。

対象者は、初回接種を完了した12歳以上全ての住民を対象に、これまで10月半ば以降としていた接種開始時期を9月半ば過ぎに前倒しをして、現行の4回目接種が未接種の方から順に実施をするというものであります。

市では、国の前倒し接種の方針に基づき、速やかな接種ができるよう準備を進めております。

詳細につきまして、担当から説明をさせます。よろしく申し上げます。

### ○議長（植田博巳君）

健康推進課長。

### ○健康推進課長（河原瑞穂君）

資料は3ページの資料1、オミクロン株対応ワクチンの接種についてご説明いたします。

今回示された接種体制確保に係る国の方針です。接種対象者は、初回接種を完了した12歳以上の全ての住民として実施することを想定して準備を進めることとされました。

ワクチンの薬事承認がなされれば、これまでの予定より1か月早い9月半ば過ぎに順次配送さ

れることから、①のまずは重症化リスクの高い現行の4回目接種の対象者である60歳以上の人、18歳から59歳で基礎疾患を有する人、医療従事者、高齢者施設等の従事者であって、まだ4回目接種をやっていない人を対象に接種を行う方針です。

次いで、①の対象者の完了が見込まれ次第、②の社会機能を維持するために必要な事業の従事者や年代別等、地域の実情に応じて初回接種を完了した人への接種に移行をしていきます。

次いで、10月半ばをめどに、①と②以外の初回接種が完了した12歳以上の人への接種に移行をしていく方針です。

接種開始時期等は、重複しますが、これまで10月半ば以降とされていた方針が1か月早い9月半ば過ぎに前倒しで実施、特例臨時接種として令和4年度末まで延長する方向で調整がされる見込みであります。

接種券の発送準備につきましては、10月半ばをめどに初回接種を完了した12歳以上の全ての人を対象に接種を開始する想定で発送準備を進め、9月半ば過ぎからの前倒し接種に対応できるよう、既に印刷や郵送している接種券も使用可能とする方針です。

次に、国の方針を受けた市の接種体制の確保についてです。初回接種を完了した12歳以上の全ての市民を想定して準備を進めることとともに、9月19日の週に配送予定のオミクロン株対応ワクチンを使用をして、まずは現行の4回目接種の対象者で未接種の人を対象に9月26日からの前倒し接種を想定して体制を確保いたします。

オミクロン株対応ワクチン接種に係る予算は9月補正に計上しておりますが、国の前倒し接種の方針に基づき、早期に着手が必要となるものについては、現行予算を活用して速やかに対応してまいりますので、ご理解をお願いいたします。

説明は以上となります。

**○議長（植田博巳君）**

ありがとうございます。

以上で説明が終わりました。この件について、お聞きしたいことがありましたら、挙手でお願いいたします。

原口議員。

**○10番（原口康之君）**

一点確認させてください。このオミクロン株の接種の間隔について少し説明願います。

**○議長（植田博巳君）**

健康推進課長。

**○健康推進課長（河原瑞穂君）**

接種間隔につきましては、まだ国のほうで決まっておりませんが、接種の準備を進める上で、5か月ということを想定して準備を進めております。

**○議長（植田博巳君）**

原口議員。

**○10番（原口康之君）**

それに関連して。従来のワクチンの間隔的なことなんですけど、中学生等、12歳以上という部分で、夏の大会等、いろいろあったと思うんですけど、間隔が割と狭いというようなことも保護者のほうから出たんですけど、その点については、きちんとした間隔というのは示されているのでしょうか。

**○議長（植田博巳君）**

健康推進課長。

**○健康推進課長（河原瑞穂君）**

オミクロン株の対応ワクチンのということによろしいでしょうか。従来ですか。

従来については、一、二回目は3週間空けての接種になっています。2回目から3回目の接種については5か月というような間隔になっております。

**○議長（植田博巳君）**

原口議員。

**○10番（原口康之君）**

それってというのは、確実に5か月以上たってから接種を行ったということでもいいですか。

**○議長（植田博巳君）**

健康推進課長。

**○健康推進課長（河原瑞穂君）**

3回目につきましては、5から11歳の方については、まだ接種の時期になっておりませんので、まだやってはおりません。

**○議長（植田博巳君）**

ほかにございませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

ほかにないようですので、次に移ります。

市長、2件目をお願いします。

杉本市長。

**○市長（杉本基久雄君）**

それでは続きまして、川崎幼稚園の事故について、ご報告をさせていただきます。

9月5日、月曜日、認定こども園「川崎幼稚園」で、あってはならない、絶対に起こしてはならない痛ましい事故が発生してしまいました。

この事故でお亡くなりになりました河本千奈さん、ご家族には、心よりお悔やみを申し上げます。

昨年、福岡県中間市で起きた事故後に出された通達に従って確認作業が行われていれば防げた事故であり、本当に残念でなりません。市では、事故の知らせを受けまして、市内全ての保育所と小中学校に園や校内の危険箇所の点検や熱中症対策等の安全管理及び施設内事故や交通事故防

止のための指導、また、送迎バスの運行や登園時、散歩時の園外活動の前後など、状況の切り替わりにおける子供の人数確認等の徹底など、通知したところでございます。

また、当該施設を利用している保護者への支援といたしまして、市と事業者が連携をいたしまして、市内に当面の受入施設を確保したところでございます。

この件につきましては、後に担当のほうから詳細を説明させます。

この事故については、本日県が行う特別監査と合同で市も監査を実施し、事故原因の究明と事故発生後の教育・保育施設等における再発防止に向けた指導を行い、安心して登園できるよう、市内保育施設、幼児教育施設の安全管理に全力で取り組んでまいります。

市の対応、詳細、事故報告等につきましては、後ほど担当から説明をさせます。

そうした中ではございますが、事故後の状況としてはございますが、市に対します電話、メールが殺到しておりまして、今回事故が起こってから担当課等へ市民の皆さんや市外の皆さんを含めて、電話の総数は470件を超えております。また、メールが60件ほど寄せられている状況でございます。

担当課だけでは対応できないものですから、総務課等、ほかの課も含めてマニュアルを策定して対応しているという状況でございます。

そうした中で、今回の電話の内容であります、当初はなぜ確認しなかったのかとか、バスの中が見えないのはおかしいでありますとか、確認のチャンスは何回もあったのにとというような、事故を防げたのではないかとというようなご意見が多数ございました。

一方、記者会見後の問合わせに関しましては、今回の事件に対するさらなる怒りといえますか、法人に対する、あるいは理事長、園長に対する対応が悪いというようなご意見が多数寄せられていると。記者会見後における電話等のご意見のほうにさらに増えているという状況でございます。

そうした中で、市といたしましても、先ほど申しましたように、この法人の保育施設、幼児施設だけではなくて、市内全体のやはり保育環境というものに対して不安を感じるというご意見もございましたので、事件当日、そして翌日に関しましては、同法人との意見交換というのは、なかなか警察の捜査も入っておりまして、連絡が取りづらい状況でございました。

そういう中から、7日の夕方ではありますが、同法人の理事長とは電話で、そして同法人の事務長とは直接市役所のほうに出向いていただきまして、今後のことについて少しお話を、協議をさせていただいたところであります。

そうした中で、榛原学園、川崎幼稚園は民間のいわゆる認定こども園でありますので、許認可権は県が持っているということでもありますので、先ほど申しましたように、特別監査につきましては今日からという中で、事故原因の究明とかいうものは市と一緒にやっていくということですが、そうした中で、市が運営を任せているといえますか、指定管理を現在、同法人がしている細江保育園、そして同じく同法人がこの4月から公私連携型の静波保育園、この二つを同法人が運営しております。そして、子育て支援センターのみらいえ、これについては市が委託しているという、三つの施設があるわけですが、これについて榛原学園側から、理事長のほうから、

この指定管理等の返納の申入れといえますか、こうした事故を起こした中で、このまま同法人がということが不安を与えるということで非常に危惧しているという中で、安心して預けられる施設として、市のほうに返納して、運営をお返ししたいというような意向が示されました。

ただ、これにつきましては明日からというわけにはいきませんので、これにつきましては、そうしたご意向を受けて、現法人とのこれからの協議、それから施設を利用している保護者の皆さん、そして従事者の皆さん、あるいは許認可をいただいている県も含めて、様々な機関と協議をさせていただいて、できるだけ早い段階で方針を固めたいというふうに思っております。

そうしたことで、一日でも早く、安心安全の保育環境を整備をしていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

信頼を得るためには、本当に長い期間、時間が、年数が必要であります、失うのは一瞬であります。そういったことで、一からしっかりと信頼を得るように、市としてもこれから再出発をさせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

では、担当のほうから。

#### ○議長（植田博巳君）

子ども子育て課長。

#### ○子ども子育て課長（前田明人君）

それでは、資料の4ページ、資料2、幼保連携型認定こども園（川崎幼稚園）におけるバス置き去り事故について、ご報告をさせていただきます。

まず、1の趣旨ですが、令和4年9月5日、牧之原市内の幼保連携型認定こども園（川崎幼稚園）で、3歳女児の園児が通園バスへ置き去りにされ死亡事故が発生しましたので、概要等について報告をさせていただきます。

事故の概要ですけれども、事故の発生日は令和4年9月5日、月曜日になります。

発生園の概要ですが、川崎幼稚園。園長が増田立義。設置者ですが、学校法人榛原学園。理事長が、同じく増田立義となります。園の種別ですが、幼保連携型認定こども園。認可につきましては、平成27年4月1日付で、認可定員は200名となっております。現在、在籍する児童の数ですが、168名。勤務する職員の数につきましては39名となっております。

亡くなられた児童の方ですが、お名前が河本千奈さん。3歳の女の子になります。入園につきましては、令和4年4月1日となります。

事故の状況等ですが、朝8時48分に送迎バスにて登園したが、バス内に約5時間取り残され、同日14時10分頃、バス内にて心肺停止状態で発見され、緊急搬送されましたが、その後、病院で死亡が確認されております。

時系列になりますが、8時。18人乗りの中型バスに運転手、乗務員が乗車し園を出発。当日は運転手、乗務員とも臨時の職員ということで、運転手は園長であり、ふだんの職員ではなかったということです。

8時48分、本児を含め6名の園児を乗せた通園バスが園に到着。乗務員は、児童の荷物を持ちながら、小さな児童から降ろしたと。他の児童については、自分で降りるように声をかけながら、園の門を開け、園内に入ったということです。その際、本児が降りたかは確認をしていなかったと。

運転手につきましては、園児が全員降りたかどうかは確認をしていないということです。

クラス担任者は、欠席等の連絡がなく、登園していない園児の所在確認をしていなかったと。

14時10分頃、降園のためバスを開錠すると、運転手と乗務員、登園時とは別の職員になりますが、倒れている本児を発見し、警察に連絡、救急車を要請したということです。

14時30分頃、救急車が到着し、肺蘇生法を実施し、榛原病院へ搬送しましたが、死亡が確認をされたということです。

次に、現在の市の対応状況です。

事件発生直後、市では市内の保育所へ安全管理の通知を発送しております。以前送りました、保育所、幼稚園、認定こども園及び小規模保育所における事故等の安全管理及び指導の徹底についてということで、通知をさせていただいております。

また、川崎幼稚園利用者への支援ということで、一時的な保育や転園、または不安等への相談窓口を開設しております。

在園数が168名ということで、そのうち一時預かりをお願いしたいというような方が32名ということで、本日分ということで把握しております。

こちらのほうにつきましては、法人側のほうで系列園で対応をしているところです。

もう一点、転園等の相談につきまして、臨時窓口を開設しておりますが、昨日現在で28件、認定の区分は記載のとおりですけれども、このような形で相談が来ております。

以上となります。

#### ○議長（植田博巳君）

杉本市長。

#### ○市長（杉本基久雄君）

それでは、私のほうから少し補足をさせていただきます。

まず一つは、先ほど470件ほどの電話が殺到しているということですが、一つには、多くのご意見の中に、牧之原市の認定こども園というような表記がされているものですから、そういった中で、牧之原市が管理している認定こども園という解釈をされて、市が運営者であるというような勘違いをされている電話が、かなり多数ございますので、そうした面においては、今日ここでしっかりと、民間の法人が運営している認定こども園でありますので、それについては市議会の皆さんにはしっかりとお話をさせていただきますし、これから市のホームページ等においても、そういった表記を少し気をつけて発信をさせていただきたいというふうに思っております。

それから、ただいま川崎幼稚園の利用者への支援でございますが、これまでは事故直後の対応として、こういう形で一時受入ということをさせていただいておりますが、現状、再開のめどが今、

立っていませんので、そうした意味では、当面の間、全ての、先ほど申しました168名のお子様の、当面の間お預かりできる体制を、市内の保育園、幼稚園でお受けできる体制を現在、各園と調整をさせていただいて、受入体制を整えたということでございますので、昨日、園利用者に運営者側から、川崎幼稚園側からメールで保護者に対してそうした相談を行っていますということで、この相談はさざんかのほうで行っております。

今後、そういった形で幼稚園が行くところがないというようなことがないように、来週から対応していきたいということで、調整しておりますので、ご承知おきいただきたいと思います。

以上です。

#### ○議長（植田博巳君）

先ほどの本会議でご挨拶したとおりでありますけれども、学校法人榛原学園、川崎幼稚園の通園バス内で幼い尊い命が失われたということに対しまして、謹んでお悔やみ申し上げます。本当に絶対にあってはならないことが起きてしまいました。そういうことから、こんな不幸が二度と起こらないように、徹底した原因の究明と管理の体制の構築をお願いしたいと思います。

皆さんから多くのご意見、質問をしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

大井議員。

#### ○11番（大井俊彦君）

本当にあってはならない残念な、私は事故というよりも事件であるというような認識をしておりますけれども、本当に残念でなりません。3歳の本当に大切な命が失われたということ、これは本当にあってはならないことだと思います。

それで、いろいろな報道関係の会見等々を見ていると、本当に基本的な確認がなされていないということが幾重にも重なった状況の中で起こってしまったということではないかなというふうに思っております。

やっぱり、市として、これから指導を、県もそうなんですけれども、していく中で、基本的な運営指導として、命を預かるということの重さ、大切さ、それから職員さんの意識改革というか、愛情を持った保育というか、その辺の精神的なもの等々について、いま一度市のほうからも徹底した指導が必要ではないかなというふうに思いますが、その辺について、どうでしょうか。

#### ○議長（植田博巳君）

子ども子育て課長。

#### ○子ども子育て課長（前田明人君）

これまでですけれども、通常、認定こども園の認可というものが県にございまして、一般的な施設の基準ですとか運営に係るものにつきましては、県のほうで指導監督していただいていたというような形になるかと思えます。

そういった中で、市のほうでも利用者の希望に基づきましてその園を使いたいという認定を行って、それに基づく給付というものは市のほうが行っていたものですから、そういった面では市



も園側と日頃から調整を取って連絡を取っていたというような形です。

したがって、これまであまり運営の細かなところまでというのは、市としては関わっていなかったというのが現実ではありますが、保育の質の向上ということで、保育園等の施設のマネジメント計画というもの等をつくって、公立園では行ってきておりますので、そういった中で指導主事ですとか、そういったものを設けているところです。

そういったところを活用しまして、各園に回って保育の質の面ですね、保育の面の充実というものを図るように考えていきたいと、そのように考えております。

**○議長（植田博巳君）**

大井議員。

**○11番（大井俊彦君）**

昨年も福岡で同じような事故が発生しまして、国のほうからもいろいろな通達が出されているということも聞いておりますし、今回も市のほうから今回の事故の安全管理とか、指導の徹底についてということで、市内保育所への通知も出されているということですが、そうした通知が守れていないということになると意味がないということだと思っておりますよ。

やっぱり、今、課長のほうから保育の質のこと等も説明がありましたけれども、もっとその前に、命の大切さということが、まず一番根本にあることだと思っております。それがあって、保育の質の向上とか、いろいろな保育の内容等々について出されていくと思っておりますけれども、今回のことを思うと、特に命の大切さ、命を守ることの重要さ、これが本当にもうちょっと守られていれば、この事件が発生せずに済んだのではないかというふうに、本当に残念に思いますけれども、もう一度その辺について、どうでしょうか。

**○議長（植田博巳君）**

子ども子育て課長。

**○子ども子育て課長（前田明人君）**

本当に私どもも、国、県のほうから様々な通知が送られてきます。当然、このチェックに関する通達のほうも、昨年、園のほうに送っております。園のほうでも記者会見の説明の中でも、職員のほうにもコピーして配っているといったような説明があったかと思っております。

ただ、それが守られていなかったというのは現実的なところであって、本当になぜというような気持ちが強いところです。

命の大切さの再確認という意味では、今後、市のほうでは今回の事故、事件の検証を行いまして、再発の防止について考えていかなければいけないというような形となっておりますので、そういった中で、市としてどういったことができるのかということも含めて、検討をさせていただければと、そのように思います。

**○議長（植田博巳君）**

杉本市長。

**○市長（杉本基久雄君）**

私も、この通達がきちんと守られていれば、今回の事故は防げていたと私は思います。

そういう中で、通達が守られていないといえますか、実行されていない、ふだんずっとそうということではなくて、恐らくこの日はいろんなことが重なったと思います。ふだんなれていない園長が運転したということも含めて、全てがということではないとは思いますが、たまたま悪いことが重なっているんですね。

それと、もう一つは今年の8月25日にこの通達が出されているんですね。市のほうからも県經由、県からいただいて各施設にこの通達を出しております。

こうした通達が守られていないといえますか、そこは私は非常に残念で、そこを監査、監督といえますか、するところは、先ほども担当が申しましたように、県なんですね。ですので、私は今年の監査で11月に監査をやったということを伺っていますので、そこでしっかりと監査をしていただければということも含めて、非常に残念だなというふうに思います。

報道等によりますと、県は今年の事故における通達に関しては、今年度の監査から監査項目に入れるということでありましたので、その辺は、非常に残念だなというふうに思いますので、そういうことについても、これから県とも協議をさせていただきたいというふうに思っております。また、指導監査の中でも明らかにさせていただきたいというふうに思っています。

それともう一つ、私立の幼稚園、認定こども園については、市内に今3園ございますが、その3園については保育の質であるとか、保育サービスの内容であるとか、そういったものに関しては県が行います。そして、市の保育園も県ですよ、定期監査といえますか、指導が入るわけですが、調査に入るわけですが、それは県なんですが、我々は市内にある保育施設、公立、そして指定管理、そして公私連携園、そしてこの4月からスタートした市の社会福祉法人、これに関しては市の保育の、今おっしゃられたような保育の質も含めて、安全管理を含めて私のところにはこの4月から、2人の園長経験者を雇用いたしまして、指導主事を一人、そして幼児教育アドバイザーを一人ということで、この二人が各園で研修を行ったり、あるいはふだんの保育の状況を確認したり指導したり、あるいは各園の代表を集めて研修指導をしたり、そういったことをこの4月からスタートさせていますので、今回事故が起きたところについては、もともとの民間園ということで、それまでの民間園の研修制度といえますか、そういうものに乗かって行っておりましたので、そちらにまで市がなかなか手が出せないという状況がございましたので、保育園に関してはそういった形でこの4月から指導、監査を徹底させていただいているということで、県の監査に加えて市も行っているということでもあります。

#### ○議長（植田博巳君）

大井議員。

#### ○11番（大井俊彦君）

縷々今、市長のほうから説明ありましたがけれども、とにかく人の命の大切さ、これをとにかく肝に銘じていただいて、絶対二度とこのようなことが起きないように、万全の体制で対応していただきたいというふうに思います。

終わります。

**○議長（植田博巳君）**

ほかにございませんか。

加藤議員。

**○5番（加藤 彰君）**

現在の市の対応状況のところ、相談窓口の開設というふうにありますけれども、親御さんなりの心のケアというものが重要なことというふうに思っています。ここの相談窓口の具体的な対応の体制であるとか、そういったものについて、詳細について教えていただきたいと思えます。

**○議長（植田博巳君）**

子ども子育て課長。

**○子ども子育て課長（前田明人君）**

臨時の相談窓口ですけれども、基本的には日常の市の窓口で相談を受けまして、やはりちょっと気にされている方もいらっしゃると思いますので、近くの相談室とか、そういうところで対応したりとかというようなこともしております。

そのほか、まず園の確保の状況等を説明させていただいて、日頃から利用者支援事業といえますか、アドバイザーをやっている方が丁寧に聞き取りを行いながら、どのようなご意向があるかというようなものを確認をしているところです。

心のケアにつきましては、事故直後に法人側に会えるときがあったものですから、そのときに法人側にはそういった方を配置するほうがいいですよというようなことをお伝えさせていただいて、そういった中で、法人では私立の幼稚園協会のほうで確保をされているということを伺っております。

それから、県のほうからも、県が実施しています心のケアの関係の相談電話みたいなものがありますので、そちらの情報を再度送っていただいたものですから、そちらにつきましても、法人のほうに届けまして、相談等あれば、そういったことも活用しながら園児さん、保護者、中には職員の方にも必要だと思いますので、活用してくださいということでお伝えしているところです。

**○議長（植田博巳君）**

今、説明していただきました子ども子育て課長におきましては、特別監査ということで県と一緒に市が行う監査にこれから行くということで、退席しますので、よろしくお願ひします。

ほかに。

中野議員。

**○13番（中野康子君）**

2点お聞きいたします。乗務していた方が臨時の方で、その方が女性の方ですけれども、シルバー人材センターの方だというふうに伺いました。資格がないという方だったようでございますけれども、基本的なことを学ぶことができたらいいのかどうか、その辺をお聞きしたいと思います。

もう一点は、保護者会の説明会で体調を崩した方が13名という報道でございましたけれども、実際はもうちょっと多かったというふうに伺っています。どのような説明がなされ、どのような映像が流されて、そのようなことになったのか、聞かせていただきたいと思います。

**○議長（植田博巳君）**

幼保支援係長。

**○幼保支援係長（板倉義樹君）**

乗務員ですが、こちらについてもその者がシルバー人材センターから派遣された職員と聞いています。こちらについて、どのような研修が行われ、どのようなルールの下に行っているかについては、指導監査等に市が入っていないので、今は現状把握はできておりません。よって、本日入る監査において、こちらについても必要な事項を聞き取り、今後の対策に生かしていくような形で監査の項目として入れていきたいと思います。

**○議長（植田博巳君）**

福祉子ども部長。

**○福祉子ども部長（河原崎貞行君）**

保護者説明会の際の内容なんですけれども、私はその保護者説明会には行っていませんので、報告を受けた内容になりますけれども、保護者約110人が参加されたということで、開始後、法人から事故のあった経緯を説明されたということで、その後、質疑応答をはじめ行ってたんですけれども、その中で、前日にご家族と児童の前で閉園というような話をされた中で、一筆書いたというような話がありました。しかしながら、その保護者会では閉園についてどうなのかというふうな話をされたときに、今後県と市の監査に従うというような話をされたというところで、話が違うというふうな話の中で、ご家族が亡くなった児童の車内の様子を話をし出したところ、保護者から悲痛な叫びが上がったということで体調を崩されたという形で、その後も同時にその会場にいた職員、あるいは保護者の方が気分を害したというところで会見は中止になったというような情報を報告を受けております。

あと、プラス5人が軽傷というところで、救急搬送まではされなかったというようなことも聞いております。

**○議長（植田博巳君）**

中野議員。

**○13番（中野康子君）**

説明をいただきました。それこそ突然の、乗務する方がいないということでシルバー人材センターのほうにお願いしたんだと思うけれども、市内各園でこういったことも多分今後あるだろうというふうに思います。そういった中で、やはり子供の人数の確認だとかって、最低限のそういった基本的なことをきっちりとやっていただくような指導というのは市でしていかなければならないかなというふうに思いますので、その辺をよろしくお願ひしたいと思います。

**○議長（植田博巳君）**

福祉こども部長。

**○福祉こども部長（河原崎貞行君）**

今日、午後から県と合同監査があります。その内容によりまして、また県と合同でその後のチェック体制をして、このような事故が二度と起こらないように、地元を通じて、園を巡回しまして体制のほうを整えていきたいと思っています。

**○議長（植田博巳君）**

杉本市長。

**○市長（杉本基久雄君）**

補足いたしますけれども、新聞報道等でもございますけれども、県が250ほど県内にあるバスを使った送迎をしている園に対して監査といたしますか、確認、指導に入ると言われておりますので、市としても共に、そうした形で徹底した指導をさせていただきたいと思っております。

**○議長（植田博巳君）**

ほかに。

名波議員。

**○4番（名波和昌君）**

3点ほどお聞かせください。監査の関係は今、県と一緒にいろいろやられるというお話ですので、ぜひやっていただきたいと思いますが、市内では相良小学校に片浜地区の児童がバスで通学をしていると思いますが、そちらについてマニュアル等がしっかりあって、それが確実に履行されているかどうか、そういった確認ができていくかどうかというところが一つ。

それから、先ほど加藤議員からのご質問もありましたけれども、ケアの関係で、今、この報告書だと川崎幼稚園利用者への支援ということしか書いていないんですが、多分園児がいる市内の、あるいは市内の幼稚園、保育園に通われているご家族は、皆さん不安に思っていると思うんです。川崎幼稚園だけに限らず、全体に周知できる、そんな体制が必要なんじゃないかと思しますので、その辺のご意向をお聞かせください。

それと、もう一点は、一時受入を市内の幼保に振り分ける体制ができたというお話なんです、そちらの幼保がしっかり登園、退園等のことが確実にできているかどうかということ、事前に行政側で、管轄が違うのかもしれませんが、チェックされているかどうか。チェックされないで、そのままそういったことを進めれば、また同じことが起こるかもしれないということもあり得ますので、その辺については、どういう形で進められるのか、以上3点についてお答えください。

**○議長（植田博巳君）**

教育長。

**○教育長（橋本 勝君）**

まず一点目のスクールバスの件について、お答えをさせていただきます。

相良小、片浜地区の子供たちが相良小に使っているスクールバスですけれども、業務を委託している運転手さんが一人で運行しているわけですが、通常、毎日乗降チェック、忘れもの

チェック、あとコロナのことがありますので、消毒、これを行っているということですが、これについての仕様書、委託する関係の仕様書については、これをやりなさいということは明記はされておられません。ですが、そこはやっていただいているということでもあります。

また、運行日誌についても、毎日運行日誌、日報を書いているわけですが、そこにもそれについてのチェックというのは実際ないものですから、これについてはまた、改めるような形で取り組みますけれども、昨日、こちらの運行している会社のほうに安全管理の徹底ということで、こちらのほうは教育委員会から通知を出させていただいております。

以上です。

**○議長（植田博巳君）**

福祉こども部長。

**○福祉こども部長（河原崎貞行君）**

心のケアの関係ですけれども、事故を起こした園以外にも、翌日朝一で、もう二度とこのような事故を起こしてはならないというような通知を、保護者、あるいは園児も不安をいただいているというところもありますので、園長を通じ、職員も保護者等から相談があった場合には親切丁寧な対応をしてくださいというような通知と文書を通知しております。

それと、あと、先ほど課長からもありましたように、県から心の電話とかストレス反応のケア、あと子供へのサポートというような、そういったいろいろな資料も提示してもらっておりますので、そういったところもこの該当園だけではなくて、市内の保育園等へも配布しまして、心のケアのサポートを行っていきたいと思います。

**○議長（植田博巳君）**

幼保支援係長。

**○幼保支援係長（板倉義樹君）**

3点目の川崎幼稚園の休園に伴い他園に行ったことにより事故が起こってはならないということですが、こちらについては、事故が起こってはならないと感じておりますので、川崎幼稚園の保育教諭の園児の顔の分かる職員が行って、登園、退園の管理を徹底するように調整をして、今、一時預かりを行っているところです。

今後、来週以降、他の園につきましても、同じように必ず園児の顔の分かる職員、これが川崎幼稚園の園児だとしっかり認識できる職員が登園、退園の管理を行い、事故の起こらないような形で行っていくように調整を図っていきます。

**○議長（植田博巳君）**

名波議員。

**○4番（名波和昌君）**

ぜひ、起こしてはならない、二度と起こしてはならないことですので、通知することは当然必要だと思っておりますが、通知と合わせて、やはり現地へ行くということも必要だと思っております。県の監査が入ることなので、それと一緒に市も入ることなので、そのときに確実にいろいろ

ろなものを守られているかどうか、実施されているかどうかを含めて、しっかり調査をしていただきたいと思います。

それと、ケアについても結構長引くことが予想されますので、全市を挙げて、ぜひケアの体制をつくり上げて対応していただきたいと思います。

以上です。

**○議長（植田博巳君）**

ほかに。

絹村議員。

**○3番（絹村智昭君）**

今回の川崎幼稚園なんですが、在籍児童数168名の中の職員数が39名と、これ適当なのかというのは確認させてもらいたいのと、市の各幼稚園、保育園のそういう職員が適正になされているかというのを確認させてもらいたいです。

それとあともう一点、職員の中の安全に対するレベルアップ、教育のほうをどういうふうにされているのかというのを確認でお願いいたします。

**○議長（植田博巳君）**

幼保支援係長。

**○幼保支援係長（板倉義樹君）**

まず、職員数についてであります。職員数につきましては、一時的にその瞬間、瞬間を職員数が足りているかどうかについては県が把握することになっております。市のほうにつきましては、施設型給付を行うため、例えば、認定こども園であれば、一日11時間運営、週6日運営、これを満たすだけの職員数があるかどうかというのを毎月報告をもらっております。今回の川崎幼稚園におきましても、報告につきましては、一日11時間、週6日運営できるだけの職員はしっかり満たしているという報告をもらっています。ほか、市内他の施設においてもしっかり職員を確保しているのが現状です。

しかし、その職員、報告を受けたものがきっちり勤務形態がどうなっているかについては、今回の監査の中で明らかにしていきたいと思っております。

2番目に、安全安心ですが、先ほど、市内には指導主事、幼児教育アドバイザーを配置し、質を含めた安全管理の研修を行ってきていました。今まではアレルギー対応の研修や不審者対応、危機管理運営などを集めた研修や、巡回によってその園に行き、行ってききましたが、こちらにつきましても、今回の監査において私立園についても研修等の協力が必要であれば、今後の再発防止等を行っていききたいと思っております。

**○議長（植田博巳君）**

絹村議員。

**○3番（絹村智昭君）**

説明いただき、職員さんの末端までしっかり子供をちゃんと見てもらうような体制づくりとい

うものをしっかりしていただくよう、よろしく願いいたします。

以上です。

**○議長（植田博巳君）**

ほかにごいませんか。

原口議員。

**○10番（原口康之君）**

二、三お伺いしたいと思いますけれども、昨年の夏、同様の事件が起きて、国から通達があって、それが先ほど市長のほうからあったように、守られていないのでこのような事故が起きてしまったということなんですけど、これから運用する側の問題もあると思うんですよ。いくらいルールがあっても、それを守るほうを守っていなければ、こんな事件は何度も繰り返すと思うんですけど、その辺の対策的なことをどのように考えているかというのが、まず一点です。その辺、お願いします。

**○議長（植田博巳君）**

幼保支援係長。

**○幼保支援係長（板倉義樹君）**

こちらについては、県が指導監査の中で一年に一回見ていっているような状況です。今回の監査において、一年に一回の確認、もしくはその確認方法について、運用する側が適切に守られるような形であるかどうかについても監査の中で見ていきまして、必要であれば、それが守られない、もしくはその監査のときだけでしか守られないような体制であれば、守られるような形の基準など、検討していきたいと思います。

**○議長（植田博巳君）**

原口議員。

**○10番（原口康之君）**

その部分で、今、県という話が出たんですけど、市内にある私立とはいえ、牧之原の宝である子供たちが通っている園ということで、そういう意味では、牧之原の園ということでは、やはりその辺をきちんとやらないと、こういう事故が起こったときに心配になると思うんですけど、県に対して任せっぱなしでいいのかどうか、その辺。

**○議長（植田博巳君）**

福祉こども部長。

**○福祉こども部長（河原崎貞行君）**

先ほどから申し上げているとおり、県と市と合同で今回、監査をやるというところでもありますので、県だけがやるというところではなくて、市も当然同時に行います。ですので、私立園であっても、先ほど議員がおっしゃられたように、市民というところの感覚は私たちにもありますので、今後も県と合同でその点もしっかりやっていきたいと思います。

**○議長（植田博巳君）**



原口議員。

**○10番（原口康之君）**

それともう一点。現在、榛原学園に指定管理されている部分もあると思うんですけど、この部分に関して、少し、今後、先ほど返納されるというようなことも説明にあったということなんですけれども、その辺、私は返納すればいいという、そういう問題でもないと思うんですけど、市として、指定管理とか民営化に関して、今後の計画等をどう考えているかという部分をお聞きします。

**○議長（植田博巳君）**

杉本市長。

**○市長（杉本基久雄君）**

指定管理、民営化に関しては、これは国の方針なんです。国が2000年当初に、小泉政権のときに三位一体改革で、民でできることは民でということで、それまで国が保育園運営等につきましては、市に対して補助金を出していました。あるいは、建物、保育園の園舎でありますとか、そういった建物を建てる時には市に補助金がきて、それを更新していったんですね。あるいは、新たに設置するときもそうなんです、これはその国の方針によって、新たな建物を造る際には、これは民でないと補助金が出ないんですね。今の制度でいきますと、国が2分の1、そして市が4分の1、そして事業者が4分の1というような制度であります。

市が仮に公設公営でつくるとなると、100%市の一般財財源でつくるということになりますし、それから運営費に関しましては、今、国が2分の1補助、民間ですとね。民営化しますと2分の1、国から来る。そして、県から4分の1の運営費が来ると。あと4分の1が市の負担というようなことになるわけですが、そういったことで国の方針もございますので、これまでどおり、私としては保育環境を整えていく上で民営化は必要であるというふうに思っています。

ただ、そういった中で、指定管理の選定でありますとか、公私連携型の運営者の選定に当たっては、これまで以上に厳しくなるといいますか、そういったものをしていく必要があるだろうというふうに思っております。

今回、4月から市の社会福祉法人を設立いたしまして、3園の運営を始めたわけですが、そういった中で、保育サービスとか保育の質とか安全管理を含めまして、先ほど申しましたように、新たに指導員、そしてアドバイザーという形でチェック体制も充実させたわけでありまして。

そういった中で、現状ではそういった運営ができていくというふうに思いますし、決して、静波、細江のこれまでの指定管理者、そして運営している園がそういった安全管理ができていないということではございませんので、そちらについては先ほどのアドバイザー、そして指導主事がしっかりとそちらの園も静波も細江も行っておりますので、そうした中で、保護者や地域の皆さんとの信頼関係、これは築かれているというふうに思っています。

ただ、今回こうした事故を起こした中で、先ほど申しましたように、今回の事故を起こした法人に対するいろいろな感情がございます。そうした中で、そのほかの今の静波とか、あるいは細

江の保護者、あるいは市民の皆さんからいろいろなご批判が出ているというのを、事業者も今回の事故を起こして痛切に感じていると思うんですね。そういう中で、我々がこのまま運営していくと迷惑がかかるのではないかと。なので、今回こうした事故を起こしたことを一つの責任として、市に返納したいという思いがあるので、今後、詳細について調整させていただきたいということで、申入れがあったということです。

その際には、先ほど申しましたように、保護者はもちろんですし、そこで働いている皆さんも、明日からというわけにはいきませんので、これからも一定期間は今の形で運営していく上においては、モチベーションを持っていただかないと、また事故が起こったりしますので、そういった意味では、そこの従事者の皆さんをしっかりと守らなくてはいけない。保育士を守って、そして保育の環境をしっかりと確保する、これが大変重要だと私は思っていますので、そういった意味では、先ほど申しましたように、事業者はもちろんのこと、市が従事者の皆さんとしっかりと対話をして、また、保護者の皆さんとも対話をして、そして方向性を出していきたいという思いであります。

**○議長（植田博巳君）**

原口議員。

**○10番（原口康之君）**

今、市長が言われたとおり、民営化については、十分これから進めていただきたい部分ではありますけれども、その前に安全性、危機管理など、十分検討して移管されるよう、お願いします。以上です。

**○議長（植田博巳君）**

杉本市長。

**○市長（杉本基久雄君）**

安全管理、先ほども同僚議員からもございましたけれども、命を守る、命を預かるということですから、そうした形でしっかりと対応させていただきたいと思っております。

**○議長（植田博巳君）**

ほかにはありませんか。

太田議員。

**○12番（太田佳晴君）**

先ほど市長のほうから、電話が470件、またメールが60件ということで、市にもいろいろなご意見が寄せられているということだったんですけれども、SNSを見てみますと、本当に数え切れないいろいろな投稿がなされております。その中で、こんなものがありました。「暑いバスの中で一人で力尽きていった子供の苦しさを思うと本当につらい。そして、その苦しみを誰よりも強く、何度も何度も想像して苦しみ続ける両親や家族のことを考えると、あまりにも気の毒過ぎる。」まさにそのとおりで、取り返しのつかないことが、あまりにもずさんな手続のミスが重なって起こってしまった。残念でなりません。

私は、牧之原市が保育園の民営化を進め出した十数年前、当初から指定管理者の事業者選定が

市の恣意的と感じられる形で進められてきたことに、強く違和感、危機感を感じ続けてまいりました。特に榛原学園との関係については、異様な関係であると私は認識をしてきました。そして今回、このような事故が起き、このことについて市として、市長としてどのような責任を感じているか、その点についてお願いします。

**○議長（植田博巳君）**

杉本市長。

**○市長（杉本基久雄君）**

指定管理に当たっては、民営化に当たっては、考え方は先ほど述べたとおりでございますし、十年前、一番最初の指定管理については、平成24年の4月からですので、そのときから始まっていますが、これに関しては指定管理者選定委員会が審査しておりますし、一つの公募基準に従って公募がされて、そして選定委員会の中で審査が行われておりますので、そういった意味では、私は適正な選定がされたというふうに認識しております。

**○議長（植田博巳君）**

太田議員。

**○12番（太田佳晴君）**

いや、そのことではなくて、今回このような事故が、事故、事件が起きてしまったことについて、市としての責任、責任の部分を市長はどう考えているかって、そういうことなんです。

**○議長（植田博巳君）**

杉本市長。

**○市長（杉本基久雄君）**

今回の事故、事件に関しましては、民設民営園の川崎幼稚園であります。そうした中で、市には権限がないわけですね。という中で、責任といいますのは、やはりそうした事故が起こらなようなしっかりした対応をこれから取っていかなくてはならない。当然、ご両親に対しては、本当にこんな事故が起こってはならないわけですが、起こってしまったということに関しては、本当に残念でならないという思いでありますし、本当に千奈ちゃんに関しては、本当に暑い思いをして、苦しい思いをさせたことについては、本当に残念でならないということであります。

**○議長（植田博巳君）**

太田議員。

**○12番（太田佳晴君）**

先ほど来、市長は、今も答弁ありましたけれども、もともと民間園であり、我々は手が出せない、そのようなことを言っております。先ほどもたまたまというようなことを言いましたけれども、理事長の記者会見を聞いていても、記者の質問に対して、今回たまたまだったのか、起こるべくして起こったのかという質問に対して、半々だと答えているんですね。先ほど言ったように、指定管理者を決めていく中で、指定管理者制度が始まり、決めていく中で、何が基本になっているかといえば、川崎幼稚園の運営状況が良好で、牧之原市にとって、子供たちにすばらしい

保育をしてくれるという、これが基本なんです。そこが基本で市が指定管理を進めてきた中で、今回、川崎幼稚園で起きたから、それは手が出せないからというのは、それは市としては明らかに逃げ口上だと思うんです。だから、それが基本になっているということを考えると、私は今回市がどのような責任を感じ、どのようにということをしっかり示すべきだと思うんです。それを民間だからということでは、だからSNSでとんでもない数のいろいろな意見が寄せられていると思うんです。全く市の危機管理ということが問われていると思うんです。そこを市長、しっかりしてもらいたいと思います。

**○議長（植田博巳君）**

杉本市長。

**○市長（杉本基久雄君）**

私も、そういった意味で、当時の選定の中でそこまで当時、審査の中ではそういった法人としてふさわしいという選定をしていますので、それが今回こうした事件が起こってしまったということですので、そこはやはり、それ以降の監査、指導監査を含めて行っているわけであって、その指導監査の中ではそうした欠点といいますか、問題というのが、これまで指摘されていないわけですね。ですので、なかなか私どもとしても見抜けないということとはございます。そして、指定管理を行っていないのは、先ほど申しましたように、アドバイザーとか指導主事を入れて、きちんと適正に行われているかということはチェック体制を、チェック等しておりますので、そういった意味では、適切な指定管理の園については行っている。権限が県なものですから、そういった中で、県の毎年行われている監査の中では問題がないということで報告されているということですので、そういった中で、今後、先ほど部長も申しましたように、県とともに、今回特別指導監査も入りますので、そうした中でしっかり対応していきたいというふうに思っていますし、それから一つの責任という話がございますが、今回の静波、細江の園の運営に関して、これからどうしていくんだという話を先ほど増田理事長と電話で、そして増田多朗事務長とは市に来ていただいて、そしてどうなんだと。どうしていくつもりだということでお話をさせていただいた中で、これ以上、牧之原市に迷惑をかけてはいけなく、市民の皆さんに不安を与えてはいけなく、そういう中で返納させていただくことが安心につながるのではないかと、不安を解消する一つの対応ではないかというようなご意見といいますか、方針をいただきましたので、そうした意味で、しっかりとまた立て直していくというふうにしたいと思っております。

**○議長（植田博巳君）**

太田議員。

**○12番（太田佳晴君）**

指定管理者を最終的に決定する、議決してきたのは我々議会でございます。そういった意味で、議会の責任というの、大きなものがあると思います。

そういった中で、今思うとよかったなと言うと悪いんですけども、静波保育園が指定管理が榛原学園にされ、その次にまた、榛原地区の細江保育園が指定管理され、また、三度、坂部保育

園が指定管理者として指定管理者の選定委員会で決定され、議会に上げられてきました。そのときに議会が、最終的にそこを、苦しかったですけれども、否決して2園になったんです。

一体どうなっていたかって。一体市と榛原学園との関係ってどうだって、非常にやっぱり、当然我々は疑問を持ちました。そういったことって分からないんですよ、市民の皆さんは。やはり公平な税金の使い方、それがされていかないと、市民の皆さんにちゃんと説明できないというのは当然だと思います。そういった意味で、我々議会としても今回のことは、やはり重く受け止めて、厳しいこともしっかり市長に対して物を言うということではないといけないというのを、私は非常に今回のことで痛感しているし、自分の責任というのも強く感じておりますので、またその点についてもしっかりと今後の危機管理体制、それについてはいま一度市のほうもしっかりと各園だけでなく、いろいろな市が関係する団体がございます。どこでどんなことがあってもいけないと思いますので、そこだけはしっかりと危機管理ということをお願いしたいと思います。

以上です。

**○議長（植田博巳君）**

杉本市長。

**○市長（杉本基久雄君）**

ただいまのご意見のとおり、保育関係はもちろんのこと、全ての各施設、団体も含めまして、危機管理体制を再度しっかりと再検証して構築してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

**○議長（植田博巳君）**

ほかにはよろしいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

ないようですので、私のほうから。

今、いろいろ質問と答弁、意見が出ております。第一に考えていただきたいのは、河本千奈ちゃんがあのバスで暑くて生きたかったんでしょけれども、尊い命が失われてしまいました。千奈ちゃん本人に皆さんなってください。そういった中で、今お話しした、これから二度と起こさない、県の認可、市の認可、それを超えて、いろいろな対策を取って、命の大切さを実践するようにしていただきたいと思います。

私からの最後のお願いは以上です。

---

**3 その他**

**○議長（植田博巳君）**

ほかにはよろしいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

それではこれで全員協議会を閉じたいと思います。お疲れさまでございました。

〔午前 11時06分 閉会〕